

【帰国生徒選抜】

本学科の帰国生徒選抜では、造形に関する思考力及び表現力の検査を行い、創造的・論理的に空間を把握する能力と、建築を中心としたテーマに対する小論文の検査を行い、思考力・表現力、創造性や論理性に関する能力を判定します。特に、自身の好奇心によって身につけた想像力、空間認識力、思考力を生かして、設問に対して独自の解釈や発想を持つことや、その解釈や発想を裏付けようとする論理的な思考を同時に展開できること、また、物事に対する的確な理解力、及びその理解を踏まえながら独自の思考を表現できることを重視します。

今年度は、実技試験である造形Ⅰでは、点光源からの光を立体に当てることで、xy平面上にできる影や、光が当たる部分を削ってできたもう一つの立体について、その平面および立体の形状を把握できるか、その立体形状をスケッチによりわかりやすく表現できるかといった、思考力、空間認識力、表現力をみることを出題意図としています。

また、小論文試験では、建築計画研究者・小林秀樹の『集住のなわばり学』からの引用文をもとにして、動物においてみられる「なわばり」が人間社会に存在した場合の様相を提示するとともに、「なわばり」と類似した様々な空間と行為の関係に関する著者の考えを要約した上で、人間の「生活領域」を「支配」の観点から説明する著者の見解に対する意見を論述させることにより、文章の理解力と、自身の体験を踏まえて論述する文章構成力と表現力をみることを出題意図としています。